

英米文化学会 第 170 回例会のお知らせ
(例会担当理事：河内裕二)

日時：2023 年 6 月 10 日 (土) 午後 3 時 00 分～
午後 2 時 30 分受付開始

場所：武蔵大学江古田キャンパス (東京都練馬区豊玉上 1-26-1)
11 号館 11203 教室 & Zoom*

*武蔵大学江古田キャンパスを会場として使用し、同時にオンライン(Zoom)のよるハイフレックス開催の予定。

非会員で Zoom 参加を希望される方は、お名前とご所属を明記し参加希望のメールを事務局 MichioTajima(at)SES-online.jp (注：@を(at)に書き換えてあります) までお送りください。ミーティング ID とパスコードをお伝えします。

開会挨拶

(3:00-)

英米文化学会会長 君塚淳一 (茨城大学)

研究発表

1. Kennedy 政権と日本に対する外交政策—Public Diplomacy を中心として

(3:10-3:50)

発表 谷 憲治 (武蔵大学)

司会 河内裕二 (尚美学園大学)

2. 著書『マーガレット・フラー：近代への扉』を語る

(4:10-4:50)

上野和子 (昭和女子大学名誉教授)

司会 君塚淳一 (茨城大学)

閉会挨拶

(4:50-)

英米文化学会副会長・事務局長 田嶋倫雄 (日本大学)

研究発表抄録

1. Kennedy 政権と日本に対する外交政策—Public Diplomacy を中心として

谷 憲治 (武蔵大学)

John F. Kennedy 大統領の新しい対日政策により、それまでアメリカ側が日本に対して持っていた「日本は敵国」という根強いイメージは、「日本はアメリカの友好国」というイメージへ次第に変化していった。一方、今だ戦争の傷跡が癒えておらず、60年安保闘争の嵐が吹き荒れていた日本でも、この Kennedy の新しい外交政策により「アメリカは日本の友好国」というイメージが世論に染み込んでいった。

Kennedy 大統領に関する先行研究は、アメリカ政治、冷戦、ベトナム戦争に軸を置いたものが殆どだが、この研究発表では先に触れた Kennedy による日米間におけるイメージ戦略の効果を、Public Diplomacy の観点から歴史資料をもとに検証する。Kennedy が日本に対する Public Diplomacy を強力に推し進めた結果、後の日米友好関係の大きな発展へと繋がったのである。

2. 著書『マーガレット・フラー：近代への扉』を語る

上野和子 (昭和女子大学名誉教授)

マーガレット・フラー(1810-50)は超絶主義、先駆的なジェンダー論の思想家、そしてジャーナリスとして、十九世紀のアメリカで最も重要視された知識人のひとりであった。ラルフ・ウォルドー・エマソン(1817-62)やヘンリー・デイヴィッド・ソロー(1817-62)と共に、彼女は優れた超絶主義者の代弁者であり、女性の修養と権利を明言した著作『十九世の女』(1845)は萌芽期のアメリカの女性運動に強い影響を与えた(序章より引用)。

『マーガレット・フラー 近代への扉—ジェンダー、階級、そして人種』
金星堂、2023年3月31日 ISBN978-4-7647-1221-8、本体3000円(税別)

本書は、アメリカ初の女性ジャーナリスト、フラーの評論的な伝記である。著作『五大湖の夏 1943年』『19世紀の女性』のジェンダー論から、欧州特派員となったフラーの視点が、欧州絵画や歌劇、アメリカ彫刻家の隆盛、新産業都市の疲弊に移り、パリ2月革命の社会主義者や革命家マッツィーニ、ガリバルディの活躍を活写し、近代の幕開けを待望したフラーの思想的変遷をたどったものである。